

明治家 実業列伝 ②4

石垣彦太郎

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道



関山街道

仙台から北西に伸びて、山形県の東根市、天童市へ通じる国道四八号線は、かつて関山街道と称されていました。途中の関山峠は勾配が急で、牛や馬を通行させることができなかつたため、明治時代初期まで、この峠を越える荷物は、人が背負って運んでいました。

かつての峠道をたどると、山形県側は比較的傾斜が緩やかですが、宮城県側は、峠の登り口が傾斜三〇度前後と急峻な坂道になっています。現在の基準では、「普通道路」の最大勾配は一二％（＝傾斜約七度）とされています。三〇度の坂は、普通では道路では用いられない、まるで断崖のような坂道なのです。こうした険しい道のため、長い間、仙台と山形方面を結ぶメインの街道は、関山峠ではなく二口峠か笹谷峠を越す道筋でした。

それを一変させたのが、明治十五（一八八二）年完成の関山トンネルです。これによって、二〇〇メートル以上の高さを稼ぐことができ、トンネルへ至る道を改良して傾斜を緩やかにした結果、車や牛馬も峠を越せるようになり、関山街道は、宮城県と山形県を結ぶ大動脈として機能するようになったのです。

宿場町から内国通運会社へ

関山峠にできたトンネルを十分に生かすには、トンネルに至る道の改良、荷物の運送機

能の整備といったことも重要な課題でした。

江戸時代は、宿場町の住人が荷物の輸送を担うことが制度的に定められていましたが、明治時代には、運送会社とその機能を引き継ぎました。その最大なのが、明治八（一八七五）年設立の内国通運会社です。日本全国に組織を広げた同社は、鉄道網が広がるまで、国内の陸上交通を一手に支えたのです。

関山街道でも、愛子などに内国通運会社の「継立所」が設けられ、仙台方面からの荷物は、愛子の継立所で馬車などに積み替えられ、関山峠へ向かったのです。

この愛子の継立所を管理していたのが、地元出身の石垣彦太郎でした。明治十八年十一月に取締人に任じられた彦太郎は、荷物運送の差配をするだけでなく、街道の整備、開発にも大きな功績を残したと言われています。

農業振興への取り組み

石垣彦太郎は、天保八（一八三七）年、宮城県上愛子村の旧家に生まれ、一九歳の若さで村の組頭に就任しています。明治十一年に村の代表者（当時は「戸長」と呼んだ）を選挙で選ぶことになった際に、上愛子村など五ヶ村の戸長に選ばれ、その後、この五ヶ村が合併してできた広瀬村の村長を務めるなど、人々の信望が厚い人物でした。

村長として地域の行政に力を尽くし、また継立所の運営に当たった彦太郎は、他にも

薪炭を仙台へ出荷する事業にも関わっていました。そして、もう一つ彦太郎が大きな役割を果たしたものに、農業の振興がありました。当時、全国的に農業技術の改良が叫ばれ、九州で勸農社を興した篤農家・林遠里が技術指導者として注目を集めました。宮城県でも明治二十年前半に林やその門人を招聘し、馬に犁を引かせて耕地を耕したり、作物の種子を塩水を用いて選別するなどの農業技術改良の普及を図りました。

彦太郎はこうした動向にすばやく反応し、村人に率先して自ら新しい技術を実践し、さらにその奨励に努めたのです。加えて、農業と薪炭の産出のほかにめばしい産業がないことを憂え、桑の植樹と養蚕を手がけて、人々にもこれを勧めました。その結果、広瀬村の桑畑面積は宮城県内随一のものとなり、明治四一年に宮城郡の写真帳が作成された際にも、郡内を代表する産業として広瀬村の桑畑の写真が紹介されるほどでした。

明治時代は農業技術が大きく進歩した時代でした。しかし当初、人々は新しい農法を警戒し、その普及は順調には進みませんでした。時には、警察が作物の栽培方法の取り締まりをすることもありましたが、人々が新しい技術を受け入れ

ていった背景には、彦太郎のような信望の厚い地域の有力者の、身をもっての

実践と普及活動があったのです。



現在は、大倉ダム近くの大倉ふるさとセンターに移築、保存されている石垣彦太郎の生家。

仙台市史

好評発売中

通史編6 近代 1

明治時代の仙台 近代化とそのくらし

◆A5判 520頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)



鎌倉山付近を通る関山街道(戦前の絵葉書 仙台市博物館所蔵)

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/株式会社宮城県教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074